

# 事業のタネシート

活動地域：福井県丹南地域  
 団体名：合同会社ローカルSDクリエイション

事業名称 1：地域の里山の保全と体験活動の企画		
あらすじ		
<p>里山や里海の荒廃を防ぐため里山整備により搬出された竹や木材を活用して、アウトドアクッキングや竹ぼうきなどを作成する体験プログラムを企画し、活動を収益化することで団体の持続的な活動につなげる。</p>		
ストーリー		
<p>丹南地域は、豊かな里地里山有し、現在多くの団体がそれらの保全や利活用に取組んでいる。北陸新幹線の延伸開業を控えた当該地域には、自然目的の観光需要や農林水産物などに一定量の市場規模があると考えられ、地域の自然資源を利活用し経済循環を創出するチャンスである。現在、保全団体のメンバーは、地域の自然資源の魅力を再認識し、地域外の人々に知ってもらうことにより、交流を通じた自然環境の保全や農林水産物のブランド化目指し、プログラムやイベントを企画し運営したいという思いがある。本事業では、地域に訪れた観光客が楽しく体験できる里山保全プログラムを企画・運営し、収益化することで活動団体の自立的資金調達そして地域の観光産業の活性化に貢献する。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	活動団体が連携し互いに補完しながら、活動の実施と交流体験活動の収益化による活動団体の自立的資金調達	活動団体内にある世代間の価値観の違い、環境活動の収益化への抵抗感、収益化できる価格に見合ったサービスの提供
②課題	団体単位では資源規模が小さく補助金依存で活動資金が持続的でない 人口減や気候変動によるマンパワー不足による里地里山・里海生態系の悪化 活動に不足している、資金やマンパワーを地域外の人々との交流にてまわれた	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	経済循環により補うことで、団体の活動を維持し地域自然資源を持続的に保全していく	
④地域資源	①里地里山、③環境保全や体験を行う団体、④宿泊施設	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	竹林整備を行い、その竹を用いての炊飯や食器や竹ぼうきを作りアウトドアランチを食べる。同時に派生した枝などの副産物で漁礁を制作し、事業2、3の里海の保全活動につなげる。対象は自然体験で訪れる県内外の観光客とし、修学旅行などの受け入れも宿泊施設などと連携し、可能な範囲で行う。	
⑥担い手 (Who)	合同会社ローカルSDクリエイション、・水の里しらやま、水辺と生き物を守る農家と市民の会、サトツナギ、各宿泊施設、越前市農政課、福井県自然環境	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	里山の保全整備 ⇒ 自然体験の収益化 ⇒ 収益は団体活動資金へ ⇒ 派生した残渣は竹漁礁として海洋保全に活用 (事業2, 3) ⇒ 宿泊施設利用	若い世代の活動者、一般企業 (旅行会社、レストランなどのプロの監修)、起業など事業化を目指す方、金融機関などによる事業計画の作成支援
⑧事業で生じる成果	荒廃した竹林をはじめとした里山の環境向上、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識、自立的資金調達による持続的活動の創出、	

事業名称 2 : 里山整備の副産物を利用した竹漁礁を用いた里海の保全活動		
あらすじ		
里山整備で派生した枝などの副産物を使い、漁礁を作成し海に沈めることで、里山と里海をつなぐ広域にわたる流域連携保全の構築を行う。ビーチコーミングなどによって海洋ごみを回収し里山の木工品などと合わせてインテリア等を作成する。		
ストーリー		
里海資源を有する当該地域では、もともと里山と里海の人々のつながりがあり、かつては農産物と海産物の交換などが日常に行われていた。また、地元住民からは里地里山の保全再生やダイビングショップ及び地元漁協関係者からは、水産資源が豊富な海を取り戻したいという声があることから、事業を通じ里海と里山の人々の絆を取り戻し、近年問題視されている里山・里海生態系の悪化を改善し、地域の自然環境を連携して守る仕組みを構築する。本事業では、事業 1 で派生した竹の枝などを使って漁礁を作成し、海に設置する以外にもビーチコーミングなどを活用したインテリアの作成講座などを開催し、海洋資源の保全、流域保全体制の構築と自然環境教育の普及・啓発につなげる。		
現時点で想定される 課題・ボトルネック		
①ありたい未来	活動団体が連携し互いに補完しながら、里山と里海がつながった広域的な自然再生がされている地域	魚礁設置や調査の資金調達 効果的な漁礁の科学的検証
②課題	人口減や気候変動による里地里山・里海生態系の悪化	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	里地里山・里海の生態系を保全を里山と里海の人々が連携して行っていく為	
④地域資源	里地里山、里海、環境保全や体験を行う地域団体	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	事業 1 の里山活動で漁礁を作成、ダイビングショップと当社の協働で漁礁を設置する。 里山保全団体に対して竹漁礁の作成指導を行う。 オフシーズンには、ビーチコーミングで拾った漂着物で手芸品作成体験や販売を行う。	
⑥担い手 (Who)	ダイビングショップアクアマリン福井、合同会社ローカルSDクリエーション、漁協・海士協会、水の里しらやま、県里山里海湖研究所	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	竹漁礁作成の人材育成 ⇒ 竹漁礁設置 ⇒ 海洋生物の生息・産卵場の創出 ⇒ ビーチコーミング ⇒ 手芸品等の作成・販売 ⇒ 売り上げの一部を漁礁の設置調査費用に活用	クラウドファンディングなどを支援する企業、海洋資源保全の専門家
⑧事業で生じる成果	海洋生態系の保全、自然環境教育の普及・啓発、竹や海洋漂着物の利用価値の再認識	

事業名称 3 : 竹漁礁の効果検証

あらすじ

効果的な里山資源を活用した漁礁を開発し、効果を検証することで海洋資源保全に貢献するとともにシュノーケリングなどによる漁礁の観察会を開催し、里海の生き物の保全を進め、里山資源のワズユースと流域連携の自然環境保全を構築

ストーリー

漁礁を設置している越前海岸は中京や関西圏有数のダイビングスポットであり多くの人々がマリンレジャーに訪れている。そこで、効果が高くシュノーケリングやダイビングで観察しやすい漁礁を事業 2 で製作し、地域の水産資源の増殖や保全に貢献する。また、漁礁の製作や設置その後の様子を SNS 等を用いて多くの人々に情報発信し、漁礁の効果や越前の里海の魅力を知ってもらい、観光と環境保全を結びつけるきっかけを作る。同時に、豊かな里海には流域の里山も大切であることを知ってもらい、周辺の里地里山の保全活動にも参加してもらえるようなツアーなどを企画し、里山と里海保全をつなげ里山資源のワズユースと流域連携の自然環境保全体制を構築し観光産業の活性化に貢献する。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	里山と里海がつながった広域的な環境保全や体験交流活動を活性化することで多くの人が訪れる地域	活動を連携しツアーとして運営する母体、受け入れに関する人数や回数、シュノーケリングなどの指導スタッフ
②課題	高齢化や過疎化によるマンパワー不足、団体単位では資源規模が小さい、人口減や気候変動による里地里山・里海生態系の悪化	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	里地里山と里海の保全活動を連携し、PRすることで活動を定期的に行い多くの人に訪れてもらい、リピーターを増やす為	
④地域資源	里海、里地里山、宿泊施設	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	漁礁の効果を検証し海洋生物の保全効果の高い漁礁の開発を行う。また、漁礁の設置やその後の様子をSNS等で参加者をはじめ広く一般に情報発信する。シュノーケリングツアーやファンダイビングによる漁礁の観察会を開催する。	
⑥担い手 (Who)	ダイビングショップアクアマリン福井、合同会社ローカルSDクリエーション、地元旅館、県里山里海湖研究所	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	漁礁の設置 (事業 2) ⇒ 漁礁の調査 ⇒ SNS等の情報発信 ⇒ リピーター新規顧客の獲得 ⇒ 漁礁観察会 ⇒ 収益の一部を漁礁設置調査に活用 ⇒ 参加者の旅館等への宿泊 ⇒ 里山保全 (事業 2 または 1) への参加	複数の里山保全団体、ダイビングショップ、旅行会社
⑧事業で生じる成果	里山資源のワズユース、流域連携保全構築、水産資源の産卵床や隠れ家の創出、収益事業としての運用、観光産業の活性化	